

国際大会の魅力

地区フェローシップ委員会
副委員長 内田リカコ
(桜井ロータリークラブ)



地区フェローシップ委員会は、国際大会への参加の促進、同好会推進を軸としたクラブ間交流、姉妹クラブ提携の3つを活動の柱としております。

本日は、お一人でも多くの方々に国際大会への参加をお誘いすべく、国際大会の魅力について報告させていただきます。

国際大会の大きな魅力の一つ目は、行ったことのないところへ行く機会をもらえるということです。ビジネスや観光目的だけでは行かないであろう場所へ行けるチャンスです。二つ目は、世界中に友だちを作れること、これもさらなる魅力です。胸にロータリーバッジがついているだけで、初めて会った人でも安心して話せる、そんな気持ちが味わえます。三つ目、そして何より一番大きな魅力は、私たちの活動が世界へ繋がっていることを実感することができることです。一昨年度の本会議でのビル・ゲイツ氏のスピーチや昨年度の開会式でのアン王女のスピーチは「自分がロータリアンで良かった」という感動が湧き上がってくる内容でした。

アトランタ大会でのビル・ゲイツ氏のスピーチは圧巻でした。ポリオ撲滅活動に、ビル・ゲイツ財団がなぜロータリー財団を選んだのかがよくわかるスピーチでした。私の勝手な訳の要約ですが以下に掲載します。



「三十数年前、ロータリーがポリオ撲滅に向けて活動し始めたころには年間35万件もの症例があった。2007年、ビル・ゲイツ財団がロータリー財団とともに活動するようになったころには年間1,700件を超えるくらいのところにはまではなっていた。しかし、それをゼロにするのには、それまで以上のお金がかかる。なぜならば、最後に残った発症例のある

国々は、戦争があったり、大変な奥地であったり、ワクチンがあっても届けるのが困難な地域であったからだ。ロータリアンはそのような地域にまでワクチンを届けるために自らワクチンの接種に赴くなど、危険な地域にまでワクチンが届くように努力を惜しまなかった。ロータリアンの勇気と尽力を讃えたい。」

このスピーチを聞いた時、それは、私がロータリアンになってから初めて、「本当にロータリアンで良かった」という気持ちが沸き上がってきた瞬間でした。

そして、それをまた再び感じさせてくれたのが、昨年度のトロントの大会でのアン王女のスピーチです。アン王女ご自身がセーブ・ザ・チルドレンのイギリスの会長であられることから、必要な人たちに必要なものを届けることの難しさを痛感しておられる方であるからこそその視点かと思えます。(以下、内田の勝手な要約訳)

「ソマリアでのポリオワクチン投与」

・ソマリアでは文化的背景として、子どもたちや女性が病院へ行くことに抵抗がある地域であった。そこで、ロータリアンたちは、「市場」でポリオワクチンの接種を実施した。

・これはロータリアンたちがその地域の文化的背景に深い理解を持ち、定型にとらわれずどんな形で実施することが最も効果的に、本当にワクチンを必要とする人々へ届けることができるかを考えて実行した例であり、素晴らしい成果を得た。

・ワクチン投与においては、どのようにして本当に必要とされる人々に届けることができるかが鍵であることを知っている、エゴを捨てどんな人々とも協力を惜しまないロータリアンの姿勢があってこそその成果である。



★ロータリアンであることの誇りを感じる瞬間を体験できる国際大会へ、お一人でも多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

ハンブルク 国際大会 地区夕食会に お越しください



地区夕食会会場
シュタイゲンベルガーホテル

ハンブルグ国際大会夕食会のご案内

日時: 2019年6月1日 夕方

会場: シュタイゲンベルガーホテル ハンブルグ
SAAL (8階)

場所: ハンブルグ空港から車で15分

国際大会会場からの距離 (2km程度):

タクシー 7分程度

電車+徒歩 20分程度



ハンブルグ・メッセ (Hamburg Messe)
国際大会会場

Steigenberger Hotel Hamburg
夕食会会場